

02	一 宮	神山小学校	イ ナ キ カ ヨ 氏 名 稲 木 華 代
分科会番号	特	分科会名	「特別の教科 道徳」特別分科会

研究題目

『探究』と『対話』を重視した道徳教育の創造

～多面的・多角的な思考を促し、考え議論する道徳の具現化を目指して～

1 主題設定の理由

本研究は、令和7年度の3年生の学級で実施した。この学級は相手の個性を認め、個々の事情に配慮しつつ寛容な心で接することができる児童が多い。日常生活では、自分やみんなのために、正しいことやよりよいことをしようとする意識が全体的に高い一方で、強い主張や態度に押され自分の意思が揺らいでしまうなど、その場の雰囲気流されやすい面もある。

道徳の授業においては自分の考えを素直に書いたり話したりすることができるが、瞬発的に心に浮かんだことにとどまり、複数の視点から検討したり、掘り下げて考えようとしたりする児童は少ない。発表においては、ペアやグループであれば話せるが、全体の場面では発言が数名の積極的な児童に偏る傾向がある。

一宮市教育研究会道徳部会では「『探究』と『対話』を重視した道徳教育の創造～多面的・多角的な思考を促し、考え議論する道徳の具現化を目指して～」について研究を進めている。上記の児童の実態と照らし合わせ、これを基に教育活動を構想することで「他者と共によりよく生きる力」を育てるのではないかと考え、本研究の主題とした。

2 研究の仮説

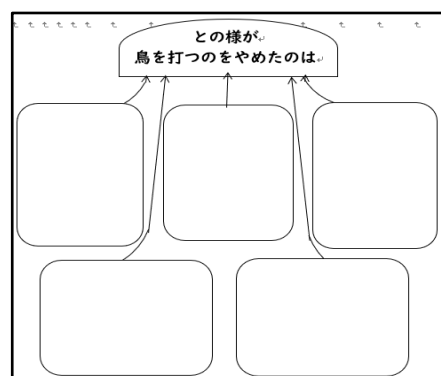
思考を引き出し表出する方法や考えの共有の仕方を工夫することで、児童は多面的・多角的な見方や考え方に気づき、自己の考えを深めることができるであろう。

3 研究の手立て

(1) 思考を引き出し表出する方法

ア 思考ツールの活用

多面的・多角的な考えを引き出すために、思考ツールを活用する。思考ツールとは、分類する、比較する、関係付けるなど、考えを整理し、見えやすい形で表現するための道具（ツール）である。思考ツールを使うことで、思いや

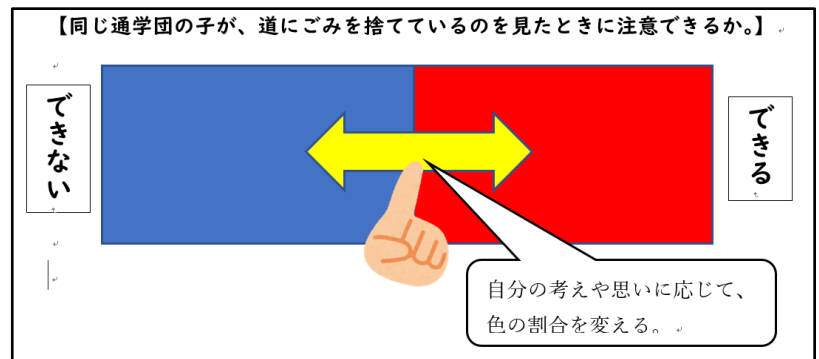


【資料1】思考ツールのクラゲチャート

考えを可視化し、思考を俯瞰したり組み立てたりできるようにする。思考ツールは、深めさせたい道徳的価値や問題に応じて、最適なツールを選択する。

イ 心情メーターの使用

心情メーターは、問題に対しての異なる考えや思いの割合を色で表現する考えるツールである。言語化が苦手な児童も取り組みやすく、自由に割合が変えられるため、意見を見直し更新することも容易である。また、なぜその割合にしたのか理由を考えることで、物事に対する多様な見方や心の揺れ動きに気付かせたい。



【資料2】心情メーター

ウ 発問の工夫

道徳における発問は、児童の問題意識や興味を喚起し、価値についての考えを広げたり深めたりするうえで重要な役割を担う。発問の内容や順序により児童の思考は大きく変化するため、「何を問うか」「どのように問うか」が鍵となる。道徳で取り扱う教材は、読み物（物語や実話）が多い。思考を活性化し表現しやすくするために、誰の視点から、どのような言葉で問うと効果的であるかを考える。

(2) 考えの共有の仕方

ア ICT 機器の活用

思考ツールや心情メーターで表現した意見を共有する際に、ミライシード（Benesse）の「オクリンク」を使用する。オクリンクは「マイボード」で作成した個人のカードを「みんなのボード」に投稿することにより、複数人で閲覧したり共同編集したりすることが可能になる。この機能を使うことで、全体の傾向を把握したり、意見の相互参照をしたりできるようにする。

イ 考える視点

他者と考えを共有する際は、「比較する」「選択する」などの考える視点から、意見を聞いたり読んだりできるようにする。自分の考えと他者の考えを比較して共通点や相違点を見つける。また「一番『なるほど』と思った意見はどれか」など、発問や道徳的価値に応じて最適な視点を児童に問いかけ、考える技法を習得させるとともに自発的な気付きを促す。

4 研究の実践と考察

以上の研究主題、仮設及び研究の手立てを踏まえ「よわむし太郎」を教材とした授業実践を行った。その実践と考察についていかに示す。

(1) 授業実践 「よわむし太郎」【A 善悪の判断、自律、自由と責任】

ア 目標

よいと思ったことを行うときに大切な心やその根底にある価値について考え、正しいと判断したことは意志をもって行おうとする心情を育てる。

イ 準備・資料

教師：クラゲチャート・ワークシート

児童：Chromebook

ウ 評価

- ・主体的に対話し、正しいと判断したことを行うために大切な心について、多面的・多角的に考えることができたか。
- ・自分が正しいと思うことを実践しようとする心情をもつことができたか。

(2) 実践と手立ての考察

ア 思考を引き出し表出する方法

① 思考ツールの活用

本実践では思考ツールの「クラゲチャート」を使って、殿様が鳥を打つのを止めた理由を考えさせた。クラゲチャートは、主に理由を考えるときに使う思考ツールで、ひとつのテーマ（理由）について多面的に考えを広げたり、整理したりすることができる。理由を書く欄が複数あることで、自然と殿様の行為が変容した背景にある多面的・多角的な太郎の価値観や殿様の見方に迫ろうとする児童が多かった。グループの意見交流で出された意見をまとめる際にも同じクラゲチャートを使い、出された意見が一覧で確認できるようにした。このことによって、個の思考とグループで共有した意見がつながり、効果的に考えを深め合うことができた。

[illegible]

【資料3】 クラゲチャートに書いた意見

② 心情メーターの使用

道徳的価値と自分とを関連付けて考えられるようにするため、授業の導入で「同じ通学団の子が道にごみを捨てているのを見たときに注意できるか」を問いとした。それに対し心情メーターで「できる」「できない」の割合を示させた。全員が自分の考えを表すことができ、他者の考えを知って割合を変えた児童もいた。「できる」「できない」のどちらかを選択するのではなく、割合として表すことで「年下の子ならできるけど年上の場合はできない」など、置かれている状況による自身の判断の違いや、自分の中に異なる思いや考えがあることに気付く契機になったと考える。

③ 発問の工夫

中心発問として「殿様が鳥を打つのを止めたのはどうしてか」を問い、話の中心人物の太郎ではなく、殿様の視点から理由を考えさせた。ねらいは、本時の深めさせたい価値である「正しいと思ったことを行うために大切な心」を追究する過程において、太郎の心情や価値観の理解に加えて他者理解の視点も包括することで、多様な見方や考え方に気付きやすくすることである。授業では、殿様の行為が変容した理由に着目したことで、正しいと思うことを全うする太郎の姿が殿様の心を動かし行動を変えるまでに至ったことに気付かせることができた。

イ 考えの共有の仕方

① ICT 機器の活用

オクリンクは、心情メーターで考えを表現するときと、グループの意見交流でまとめた結果を全体で共有する際に使用した。心情メーターは全員の考えが一覧で見られるようにしたため、他者の考えに関心を高めることにもつながった。グループでまとめた結果は、児童が自由に操作して自分のペースで見られるようにした。しかし閲覧する時間を十分にとることができなかったため、教師が取り上げた意見に注目するに留まった。児童が主体的に多様な価値に気付いて考えを深めるためには、十分な時間の確保が必要だと感じた。

② 考える視点

中心発問である「殿様が鳥を打つのを止めたのはどうしてか」について、グループで出された意見をまとめたクラゲチャートをオクリンクで共有する際に「多くのグループが出している意見はどれか」と「他のグループにない意見はどれか」の視点を投げかけた。しかし、時間を十分に確保できず、各グループの意見を読み終わっていない段階で問いを投げかけたため、児童は読むことに精一杯で応答はほぼなかった。児童の気付きをもとに全体で考えを深めるには、時間の確保はもちろんのこと、他者の意見を知るにあたり、授業中のどの段階でも、児童が自発的に他者の意見と比較しながら考えることができるように育成していくことが肝要である。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

授業で使った思考ツールのクラゲチャートには「殿様が鳥を打つのを止めたのはどうしてか」について、一番多く書いた児童で5つ、学級としては平均で3つの異なる観点からの意見を書くことができた。そして、本時に深めさせたい「自分が正しいと思ったことを行うために大切な心」として、上記で自分が書いた意見と異なる観点から考えた児童は27人中20人であった。思考ツール

を用いることで、一つの見方や考え方に留まらず、他の視点から考えようとする柔軟性をもって思考を掘り下げることができた。

また、最初は話の中心人物である太郎の視点から考え、次に殿様の視点から太郎の行動を分析するような発問で考えさせたことは、太郎の価値観や行為が他者にどのような影響を与えたのかを気づかせることにつながり、価値理解や人間理解を深めるうえで効果的であった。

殿様が鳥を打つのを止めたのはどうしてか	正しいと思ったことを行うために大切な心
・子どもたちが大切にしている鳥だと分かったから。 ・子どもたちがずっと世話をしている鳥だと分かったから。 ・子どもたちがかわいそうだと思ったから。 ・子どもたちが悲しむから。 ・子どもの笑顔を無くしたくないから。 ・みんなのがんばりを台無しにしてしまうと思ったから。 ・みんなの気持ちが分かったから。 ・大切な鳥だと思ったから。 ・鳥がかわいそうだから。 ・鳥の命は一つしかないから。 ・生き物を殺してはいけないと気づいたから。 ・だめなことをしたと思ったから。 ・だめな人と思われたくないから。 ・殿様だからといってそんなことをしてはいけない。 ・今まで狩りをしすぎたと思ったから。 ・太郎に止められたから。 ・太郎が泣きながら言ったから。 ・太郎が強いと思ったから。 ・太郎が優しいと思ったから。 ・太郎が言った言葉に納得してやめた。 ・太郎が命をかけたほど大切な鳥だと思ったから。	・勇気 ・自分の勇気を信じる ・何かを大切に思う心 ・負けずにがんばる。 ・優しい心 ・思いやり ・強い心 ・仲良くする心 ・みんなが笑顔になること ・みんなのためを思う心 ・相手のことを思う心 ・互いに思い合うこと ・人のために動く心 ・大切なものを守る心 ・悪いことをしない心 ・だめなことをしない心 ・正義の心 ・きれいな心 ・人に自分の意見をはっきりと言う ・助けたいという気持ち ・だめなときにちゃんと怒ること

【資料4】児童の意見

(2) 課題

研究の課題として、以下の2点を挙げる。

- ・効果的な考えを表出する方法の選択

道徳で取り扱う読み物教材において、誰の視点から、どのような方法で考えるかは、思考の広がりや深まりのポイントになる。本研究では思考ツールを使用したけど、目的や児童の実態に応じて、最適な方法を模索し続けたい。

- ・児童の思考を深める共有の仕方

多面的・多角的な思考を深めるために、他者の考えを知り、自分では気付かなかった新たな見方や考え方を得ることが重要である。そこで、意見を共有するにあたり、どのような活動形態や方法で行うと児童の気づきが促されるのかを今後も考えていきたい。